

インディアナ日本語学校便り

だいごう
第41号

令和7年3月15日事務所 317-255-1631 メール ijls@indiana-j-school.net

(HP) <http://www.indiana-j-school.net>

校長 森 勝義

「令和6年度修了式」 ～令和6年度卒園式・卒業証書授与式～

校長 森 勝義

本日、幼稚部26名、小学6年生26名、中学3年生22名、高等部8名の卒園証明書卒業証書授与式を実施します。

現地校に通いながら、毎週本校で学ぶという困難を克服し、成し遂げた喜びはひとしおのことと思います。同時にここに至るまでには、ご家庭の温かいご理解と物心両面からの支援があつてのものでお子様以上の喜びを想像いたします。本当におめでとうございました。また、在校生も、それぞれが、当該学年を修了することができ、新年度から一学年ずつ進級します。

小学5年生の送辞 小学5年1組 山口 清悠 小学5年2組 石井 碧芭

冬の寒さが和らぎ始め、陽の光やそよ風の吹く暖かさに、春の気配が感じられる今日の良き日。晴れてこのインディアナ日本語学校卒業式をむかえられた小学6年生、中学3年生、高校3年生の皆さん。ご卒業おめでとうございました。在校生を代表し、心よりお祝い申し上げます。

皆さんの卒業式がこんなに早く来たことに一年があつという間に過ぎたことを実感し、さみしさを感じています。卒業生の皆さんは、日本語学校に入学した日のこと覚えてらっしゃいますか。現地校にもまだ慣れない中、不安な気持ちで初登校日をむかえた方もおられたかと思います。それでも、友だちや先生と良い関係を築いていく中で、毎週土曜日に、朝早くねむい目をこすりながらも、日本語学校に来ることが楽しみになったのではないのでしょうか。

みんなと楽しく食べたお弁当、暑くても寒くても外で元気に遊んだ休み時間、一生けんめい終わらせた大量の宿題。楽しかったこと、苦しかったこと、たくさんの思い出があることと思います。中でも、全校生徒が心をつにした運動会での皆さんのすがたは、特に心に残りました。競技一つ一つに一生けんめいに向き合うすがたは、これからの私たちの目標です。せんばい方に続けるよう、精いっぱいがんばります。

これから皆さんは、自分の選んだそれぞれの夢に向かって進んで行かれることと思います。時はつらいこともあるかもしれませんが。そんな時は、日本語学校で過ごしたことを思い出しがんばってください。

最後に、皆さんの、これからのご活躍とご健康を心から願いつつ、感謝の気持ちと共に贈る言葉とします。

卒業生の皆さん、本日はご卒業、本当におめでとうございました。

高校3年生答辞

村林洋基

木々の芽、水仙の蕾が少しづつ膨らみ、寒いインディアナ州にもようやく春が訪れました。みなさま、本日は私たちの卒業のために、このような素敵な式を開いていただき、本当にありがとうございます。卒業生一同、心から感謝しています。

デイビス鞠子

週に一度の日本語学校補習校。

普段の現地校とは異なる環境で、日本の勉強を続けることは簡単ではありませんでした。しかしこの学校では勉強だけではなく、日本の文化や考え方、行事に触れることができる貴重な経験をすることができました。

梅村彩音

授業のたびに現地校とは違う、日本の勉強をできたのは嬉しかったです。熱心で優しい先生方や友達と一緒に学べたからこそ、今日まで楽しく通うことができました。

田上陽翔

運動会や書き初め、日本の行事をみんなで経験できたのも、日本語学校ならではの特別な思い出です。たった週1回でも、私たちはたくさんを学び、成長することができました。

麻場理未

先生方、いつも優しく丁寧に教えてくださり、本当にありがとうございました。そして、毎週送り迎えをしてくれた家族にも心から感謝しています。みなさんの支えがあったからこそ、ここまで続けることができました。

近藤孝太

これからはそれぞれの道に進みますが、日本語学校で学んだことを大切にしながら、ここで得た経験やつながりを自信に変えて、新しい世界にチャレンジしていきたいと思います。

大狭間暖

最後に、在校生のみなさん、週1回の学校はあっという間に終わります。今しかできない経験を楽しんでください。日本語を学び続けてください。

学校生活を支えてくださったすべての方々に改めてお礼を申し上げるとともにインディアナ日本語学校補習校の更なる発展を願って答辞の言葉とさせていただきます。

2025年3月15日 卒業生一同